



むだじやないよ

子どもの道草 回り道



小学校の登校時、近所の子ども達が揃って学校に行く登校班は、いつの頃から始まったのでしょうか。おそらく、車が増えてきた昭和30年代くらいからだと思えますが、登校時は一緒でも、下校時は学年によって終業時間が違うので、一緒に帰ることは、当時はなかったように思います。(時代・地域で差はあると思います。)

平成に入り、児童を巻き込んだ事件がいくつも起こり、下校時、地域での「見守り活動」が始まりました。子ども達が通る道の角々に立ち、温かく見守ってくださるご近所さんの活動です。素敵な活動なのですが、それにより、子どもたちは「決められた道」以外は登下校で通ら

なく(通れなく)なってしまいました。

「あそこには、たくさんどんぐりが落ちてるよ」とポケットいっぱいにして帰るとか、「〇〇ちゃんのお家はここだね」と、教えてもらいながらウロウロ帰るとか、多様な子ども達の道草、回り道。残念なことに、ここで培う冒険心や探求心は得られなくなりました。

子ども達の暮らしでの安全が、豊かな経験が、そのせめぎあいの中で何を優先して行くのかを、ふと考えてしまうこの頃です。